● 令和４年度　福島県　意見交換会・実践の場を踏まえた「ふるさとWS」の開催について

資料2-3

○ 令和４年度の福島実践の場では、今年度、Jヴィレッジにて立ち上げる若者たちの「話し合いの場」について、第１回イベントの具体的な企画案などを若者主体で検討。

○ 若者が発案した企画のうち、**ふるさとに関係するWS**については、汎用性のある取組であるため、**復興庁　Fw:東北　Fan　Meetingの機会※を活用しトライアル実施**。今後、WSのひな型について整理し、**関係人口の増加に資するWSの１つの手法として情報提供**予定。

※　5/29（月）19:00～オンライン開催予定。岩手県からも移住コーディネーターや自治体担当者の方に参加いただく予定。

■ 福島県　実践の場の企画背景

【背景・目的】

- 福島が直面する人口減少や高齢化、産業の担い手不足などの課題の解決に向けて、2023 年度以降、福島の復興のシンボルである「Ｊ-VILLAGE」を舞台に県内外の若者たちが「持続可能な地域づくり」を考える「話し合いの場」を設ける予定

- その前準備のプロジェクトとして、県内外の大学生、若手の社会人に参加いただき、福島県浜通りの視察、地域課題の解決に向けて地元で活躍している方々とのディスカッション、グループワークを通じて、次年度の「話し合いの場」の具体的な議論のテーマなどのプログラム案を検討

■ 福島県実践の場の開催概要

「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」

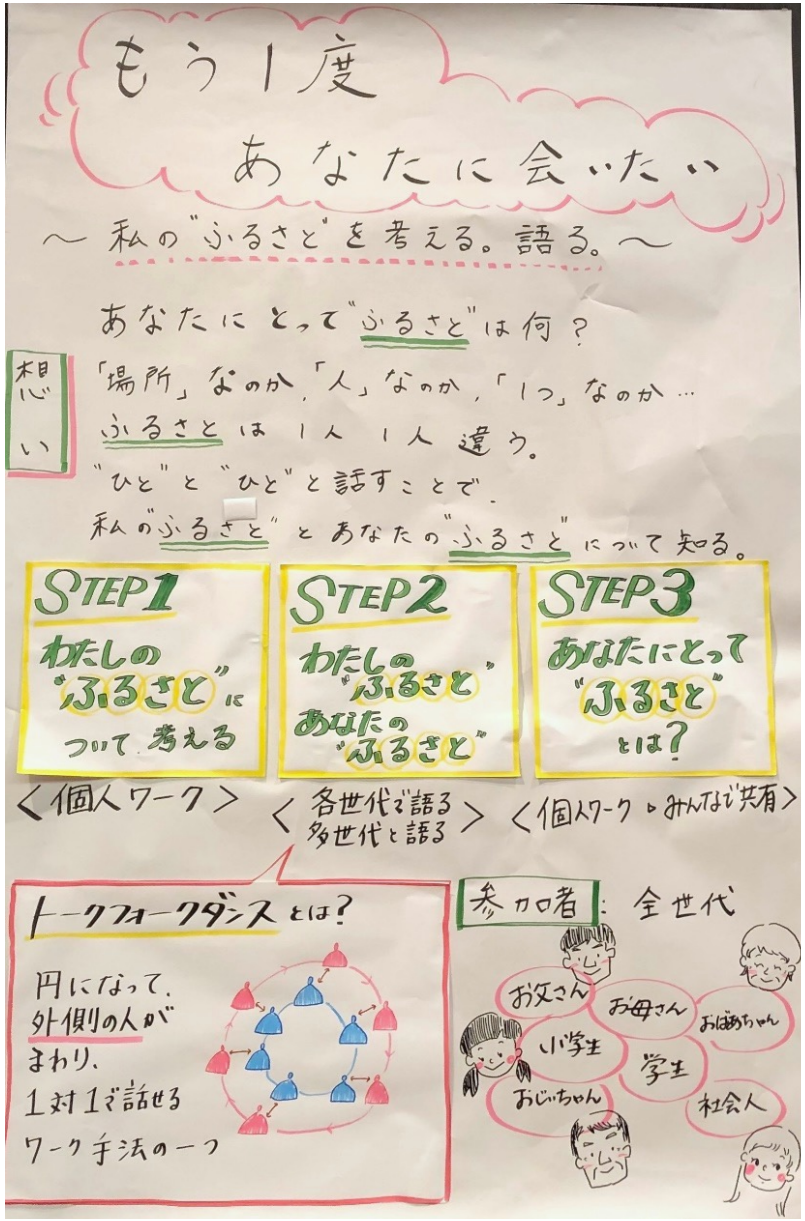
●日時：2023年２月16日（木）・17日（金）
●場所：福島県双葉郡
●内容：
- 視察（東日本大震災・原子力災害伝承館、中間貯蔵施設、福島しろはとファーム）
- ディスカッション（福島大学　鈴木典夫教授、一般社団法人まちづくりなみえ　石山佳那氏）
- グループディスカッション（参加者３チームに分かれ、次年度の「話し合いの場」のテーマ、チームごとにテーマ設定、テーマ設定の背景、参加者、プログラム内容等を検討）
- 記者発表

●参加者：若者 14名（県内大学生５名、県外大学生7名、県内社会人２名）
運営側参加者：Jヴィレッジ、県・連携復興センター・福島大学・東邦銀行、復興庁・事務局

■ 各グループが発表した企画案

Ａグループ プログラム内容	**「ふるさと」**がテーマ。**トークフォークダンス（TFD）形式**で、会議の参加者が二重の円になって、円の内側と外側の人が１対１で対話することを繰り返しながら、各世代と語る。対話の前後で自分のふるさとについての考えを記録し、考え方の変化や他者との価値観の違いを振り返り・共有。
参加者	幅広い世代の参加者が参加。
Ｂグループ プログラム内容	**４泊５日程度、交流や現地視察・体験、ディスカッション**を実施。最終日に、一人一人や行政、街として**「目指したい、目指すべき未来の姿」**を議論。
参加者	浜通りの定住者、移住者の方々と浜通りに関心のある方々、30人程度。
Ｃグループ プログラム内容	福島県内で**アクティビティ（視察、職業体験）や民泊などを体験**。その後、**全国へモデル化できるような具体的な地方創生策**をグループで議論（zoom等）。当日はビジコン形式で、企業の方々を含めた浜通りの人々に対して、プレゼン。
参加者	全国から集まった地方創生や地域活性化に興味がある学生、20人程度。

（参考）Aグループ企画発表内容詳細



もう１度　あなたに会いたい
～ 私の "ふるさと" を考える。語る。 ～

私たちが考えたテーマは、「もう一度、あなたに会いたい～私のふるさとを考える、語る～」です。
さて、ふるさとと聞いて何を考え、思い浮かべますか。

登下校の帰り道でしょうか。親や友達の顔でしょうか。家の近所にある城や寺でしょうか。私は大阪・岸和田市の出身です。だんじり祭りが有名で、そのだんじりや友達を思い浮かべました。
ふるさとは「場所」なのでしょうか。それとも友人といった「人」なのでしょうか。それはひとつでしょうか。私は大学が東京にあり、授業で福島・飯舘村を訪れました。そこで訪れるにあたって、飯舘村を福島のふるさとなんじゃないか、と少しずつ思うようになりました。ふるさとはひとつじゃないかもしれません。そして、ふるさとは一人一人違うんじゃないでしょうか。
対話する中で、自分の、また**相手のふるさとを知ることでそこに愛着が湧き**、真に自分のふるさとのように感じるのではないでしょうか。そして、自分は対話した相手のふるさとを訪れ、相手は私のふるさとを訪れると、**関係人口は増えていく**のではないでしょうか。**そうした思いを叶える**ために、私たちはこの事業を提案しました。

まずステップ①、私のふるさとについて考える。これは**自分のふるさとを考える**パートです。
ステップ②、「私のふるさと、あなたのふるさと」です。これは、**各世代と語る**というものです。そこで私たちは形式として「トークフォークダンス」というものを採用したいと思います。これは、二重の円になって、外側の人が回り、1対1で話せるというものです。そして、じっくり話すのです。これをする前にアイスブレイクとして、同世代数人で集まって交流してもらいます。その後、多世代で語ってもらいます。例えば、青のグループは20代、赤のグループは60代、と語り合ってもらうことで、新たな示唆が得られると考えています。
そして、ステップ③、「あなたにとってふるさととは」です。これはステップ①と同じことを聞いているのですが、ステップ②の多世代の交流で意見や考えが変わったりすると思うので、それを振り返り、共有をしたいと考えています。ステップ①とステップ③で参加者に記入してもらい、自分の**ふるさとについての意見、価値観の違いを記録する**ことでこの事業の成果としたいと考えています。
参加者は全世代を想定しています。お父さん、お母さん、子供世代、全てに参加してもらいたいと考えています。**県内だけでなく県外からも**来てもらいたいと考えています。グループは近しい年代で分けたいと考えています。企業に勤めている方は色々な肩書があると思いますが、それは度外視して自分個人の考えでふるさとについて考えてほしいと思っています。
開催する**場所はJヴィレッジ**が相応しいと考えています。特にJヴィレッジは日本の復興の象徴です。その場所で自分のふるさとについて考えることは重要と思います。Jヴィレッジの芝生の上で考え、語り合うことが素晴らしいと思います。語り合った後に、相手に対して「もう一度あなたに会いたい」と言えるようになれば、この企画は成功したと言えると思います。以上です。